行事の意義を考える
季節の行事「お月見_十三夜」

第１３６号　２０１９年１０月７日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

10 月の室礼

十三夜は別名「栗名月」「豆名月」とも呼ばれる収穫をお祝いする行事

※今年の十三夜は、10 月 11 日（金）です。

ススキ：お米収穫を願い、穂の出た稲穂に見立て盛る習慣があるそうです。
茎が空洞のため神様がいらっしゃる、神様の依り代とも考えられ
禍から収穫物を守り、翌年の豊作も願う意味も込められています。

季節の野菜・果物・草花：収穫物への感謝

梨：有りの実（言葉の盛物）
※忌み言葉の「無し」を「有り」に言い換えた言葉。「なし」と言わず
「有りの実（ありのみ)」と呼んでいます。

頂き物のさつまいも、梨。
宮前家で採れた、かぼちゃと里芋。

松月の月見団子

月見肉団子
2018/10/22「月見団子」
カグヤクルーブログより

十三夜

今回もカグヤクルーの宮前さんに「室礼」について、
インタビューを行いました。

奥山　お供えしたお団子大きいですね！

宮前　そうなんです、こちら赤坂にある大正六年創業の「松月」の和菓子屋さんのものですが、予約しないと買えないんです。

奥山　お店の名前にも「月」が入っていますね。

宮前　お団子は柔らかく作るのが難しいらしく、室礼の先生が作り方を教えてもらおうとしたそうですが、教えてもらえなかったそうです。

奥山　大きいのに柔らかくて美味しいですね！それにしても大きなお団子ですね。お月見のお団子と言うと、小さなお団子が並んでいるイメージがありましたが、お団子の大きさにも何か意味があるのでしょうか？

宮前　調べてみたところ、特に決まりなどはないようですが、十五夜にちなんで、一寸五分(約 4.5cm)が縁起が良いとされています。お団子の形は、お月様に見立てて真ん丸が良いように思いますが、真ん丸のお団子は亡くなった方の枕元にお供えする「枕だんご」に通じるので少し形をつぶした方が良いとされているそうです。

奥山　そうなのですね、全然知りませんでした。

宮前　また、地域によって団子の種類や形も異なり、関西ではお月見の時期に収穫できる里芋の形に見立てていると言われています。

奥山　お団子一つとっても学びが深いですね！お月見のことを考えた時にちょうどファストフード店で月見バーガーを見かけて、お月見にかけて面白い取り組みだなと思い、食べてしまいました。（笑）

宮前　一件、行事と関係なさそうなファストフードでも取り入れているのは面白いですね。行事に触れるきっかけにもなりますね。

奥山　以前宮前さんのブログで「月見肉団子」が紹介されていましたが、楽しんでるな～と思いました。（笑）

宮前　食事を絡めると行事がより一層楽しくなります。楽しいと思えることを大切にしています。

奥山　楽しいのは大切なことですね。ところで、十五夜というのはよく

十五夜と十三夜とではお団子をお供えする数が異なります。
十五夜：15 個　　十三夜：13 個

うさぎと餅つきの飾り

社内では手づくりのお団子をお供えしたことも

聞きますが、十三夜とはどういうものなのでしょうか？

宮前　十三夜は、十五夜に次いで美しい月だと言われ、中秋の名月（十五夜）から約 1 か月後に巡って来ます。十三夜のお月見を昔から大切にしていて、十五夜または十三夜のどちらか一方しか観ないことを「片見月」と呼んで、縁起が悪いこととしていたようです。調べてみると、他にも、十日夜（とおかんや）というお月見行事もあるそうで、昔からお月様が身近であることが分かります。

奥山　十日夜、始めて聞きました。日本人はお月様を昔から眺めていたのですね。

宮前　日本人は月のことを「お月さま」と呼んだりしますが、天体に「お」と「さま」をつけて呼ぶ習慣は、外国ではあまり見られないそうです。

奥山　言われてみたら、「お」と「さま」をつけて呼んでいますね。

宮前　これは、私たちが、古くから月に畏敬の念を抱いてきた精神風土の現れかもしれません。天文学が発展する前は、空にぽっかりと浮かんで光り、満ちたり欠けたり、更には消えたりする月は、今以上に神秘的な存在だったのではないでしょうか。

奥山　確かにそうかもしれませんね。

宮前　「十五夜の意味は何だろう？」という面白さも勿論ありますが、ちょうど先日室礼の先生からも、「本来『満月や十五夜だからお供えしましょう』でよかったものを、それを説明して頭で理解しようというのは変なことですよね。収穫が出来て嬉しいとか、月がきれい、ということを説明しないといけないなんて･･･」というような話があり、行事の意味を深める奥深さと同時に考えさせられる一言でした。

奥山　本当にそうですね、私自身、行事の奥深さを知って、理解しようとしていましたが、月を眺めてきれいと思う心が大切ですね。

宮前　そうですね。十五夜は別名「芋名月」と呼ばれ、十三夜は別名「栗名月」「豆名月」とも呼ばれていますが、お月見は季節を感じられる行事、収穫をお祝いする行事ですから、やっぱりどちらにも感謝してお祝いすることが大事なことなのかもしれませんね。

奥山　本来収穫に感謝する行事なのですね。

宮前　「お月見」は、夜空に輝く満月を鑑賞する大変風流な行事です

室礼教室より

が、その起源は月が欠けて満つることにちなみ、ものの「結果」したことに感謝するお祝いの儀式、また、生命の満ち欠けへの連想から、自分に生命を繋いで下さった祖先の霊を忍ぶ日でもあったそうです。

奥山　お月見にはそういう意味もあったのですね。

宮前　先生からお稽古のはじめに「日本文化は、稲作文化です。稲作文化は、育てる文化、待つ文化です。それは、稲だけでなく、人も同じこと。お月見の室礼をしますが、決してお団子を飾るのが文化ではなく、本来は、お米をつくって、お団子をお供えして、収穫の感謝をお届けすることが、お月見の行事です。」とお話しがありました。

奥山　カグヤの田んぼでも先日稲刈りを行い、収穫への感謝ということを改めて感じます。

宮前　日本は長い間、米づくりをしていて、ものをつくる、育てる、育ちを待つ文化なのだと教わり、それはまさに「見守る文化」なのだと感じました。

奥山　本当にそうですね。

宮前　稲も人も同じだと考えると、稲（子ども）の育ちを祈り、稲（子ども）の育ちをよく見て、稲（子ども）に必要なタイミングで手をかけながら、その間ずっと、稲（子ども）の育ちを信じて待つ。それは、「見守る保育」に通じていて、日本らしい保育の姿であり、とても自然なことだと感じます。

奥山　本当ですね。さて、今年の十三夜はいつになるのでしょうか？

宮前　10 月 11 日（金）です。昔から「十三夜に曇りなし」といわれているそうです。秋になり空気が澄んできて、お月様が、特に美しく見えてくる頃です。先人たちに思いを馳せながら、夜空を見上げてみようと思います。

奥山　十三夜が来るまでもお月様も眺めていきたいと思います。ありがとうございました。

●過去のバックナンバー

第 1 3 3 号

藤﨑農場＿稲刈り

第 1 3 4 号

子どもの育ち～MIMAMORU アプローチ～

第 1 3 5 号

地域の祭り＿阿伎留神社例大祭

http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/

caguya

〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11　新宿三井ビルディング 2 号館 10 階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ　奥山卓矢

ミマモルジュメールマガジン

メールマガジンのご登録は、

ＱＲコードからお願いします。